

■効果の見える治水事業

高知県 和食ダム建設事業

高知県安芸土木事務所

和食ダム建設事務所長 汲田 信幸



○ダム本体工事の進捗状況

現在、二級河川和食川に建設中の和食ダムが所在する芸西村では、平成元年8月の集中豪雨により、和食川沿いに広がる農地や住宅地で約245haに及ぶ浸水被害を受けています。一方、平成8年1月の渇水により、村内全戸で夜間断水を余儀なくされるなど、治水、利水の両面でこれまで多大な被害を受けてきました。

ダムが完成すれば、洪水調節により下流域の浸水被害を軽減し、流域住民の安全安心を確保するとともに、ダムによる安定的な水の供給を可能とすることで、村の基幹産業であるハウス園芸の生産性向上につながり、地域産業の発展に寄与できると考えています。

平成25年10月の本体着工以来、基礎掘削工、仮設備工の工事を終え、平成27年7月末からは堤体打設を開始しており、平成28年5月末現在、約2.7万m³（進捗率は43%）が打設済みで、平成30年度の事業完成を目指し鋭意施工中となっています。



← ダムサイトを下流から望む



ダムサイトを上流から望む →

○地域協働によるダムづくりの取り組み

和食ダム周辺部には、熊ノ倉城跡等の史跡スポットが数多く存在することから、地元芸西村では、これらスポットにアクセスすることができる遊歩道「よかっぱロード」計画をダムの上下流で進めています。計画づくりには、和食ダム関係者や芸西村をはじめ、歴史・食・自然・商工の4分野で活躍されている地域住民の方々も参画し、和食ダム周辺でのイベントや観光施設との連携などを見据えた計画となるよう、多様な意見を取り入れながら計画策定を進めています。平成28年3月には、ダムを含む和食川上流域の整備計画の方針が策定されており、和食ダム建設に当たっては、この方針に従い当ダムが地域活性化につながるインフラ施設となるよう、今後も官民協働による取り組みを進めていく所存です。



← 座談会の様子



基本構想図の一例 →

小さくても元気で輝くむら



芸西村長 竹内 強

芸西村は昭和29年7月に、和食村・西分村・馬ノ上村が合併して誕生しました。高知市から東方へ約30kmに位置し、人口は3,900人ほどの小さな村ですが、「小さくても元気で輝くむら」を目指して、活力ある村づくり、幸せを感じる村づくりに取り組んでいます。

年間を通して温暖な気候に恵まれているため、ビニールハウスによる施設園芸が盛んであり、ナス、ピーマン、花卉など豊富な特産品を持つ高知県内屈指の園芸農村です。

また、近年取り組みを進めている子育て支援策の充実と、高規格幹線道路「高知東部自動車道」の延伸による、市街地までの移動時間短縮の効果により転入者が増加しており、昨年までの5年間の人口動態は転入者が転出者を上回る、県下でも数少ない人口社会増の村となっています。

昭和20年代までの芸西村は、大波による河口部の閉塞や堤防の決壊などにより大きな被害が続いていましたが、その後の導流堤建設や河川改修により治水対策の強化が図られてきました。そして現在では、抜本的な治水対策の切り札として（県営）和食ダムが建設されています。

和食ダムの完成は平成30年度の予定となっていますが、その完成を見据え、ダムという地域資源を活用した村の活性化について検討を進めています。和食ダムは国道から4kmほどの位置にあり、利便性もよいため、交流人口の拡大を図る観光資源として大きな可能性を秘めています。ダム湖周辺を巡るウォーキングコースの整備やイベントの開催、ダムに関連した特産品の開発等、数々のアイデアが浮かんできます。また、近年はダム見学を目的に各地を訪ねるなど、ダムに強い関心を持つ人も増えているようです。

今後、先進地の取り組みや住民の意見も参考にして、和食ダムを活かした新しい村づくりを進め、芸西村が更に魅力ある「小さくても元気で輝くむら」となることを願っております。



特産品のナスとピーマン



地場産品直販所「琴ヶ浜かつぱ市」